

遠隔健康相談システムを用いた薬局における健康相談の臨床実証報告

○岡崎 光洋¹, 小笠原 克彦², 阿部 保², 下田 智子², 良村 貞子², 中安 一幸², 後藤 輝明³, 吉町 昌子³, 岩丸 宏明⁴, 田村 信吾⁴(¹北海道薬大, ²北大院保健, ³ツルハ, ⁴シスコシステムズ(同))

【目的】近年北海道では、地方と都市部の健康格差を減らし、医療専門職者および施設の偏在を改善し、健康保持・増進の観点から地域医療を守ることが期待されている。そして国民医療費の急激な増加や医療制度の疲弊等から、地域住民の健康増進と未病への対応において、薬局および薬剤師の活躍が期待されている。今回我々は、北海道の地方町村の地域実情において、偏在する医療施設や医療専門職者の是正改善と有効活用のための実施可能な方策の一つとして、遠隔システムを利用した健康および医療相談があると考えた。そして、地域住人の健康の保持増進に寄与することを目的として、最先端のセキュリティ技術および高速インターネット技術を用いた遠隔健康相談システムを薬局に設置し、医療専門職者による健康相談サービスの提供を行った。実施結果から、相談のニーズやサービスの使用感、満足度に関するアンケート調査を実施した結果について報告する。

【方法】本実験は、北海道大学大学院保健科学研究院に設置した遠隔健康相談室とツルハドラッグ調剤併設店舗（中標津東店、他）にシスコシステムズが開発した遠隔保健相談システム端末ユニットを設置し、インターネット回線で接続した環境で行った。店舗側で健康相談を希望する利用者は、端末ユニットを利用して相談室の看護師らに相談していただき、相談内容及び使用感や満足度に関するアンケート調査を実施した。

【結果・考察】今回、薬局に設置した遠隔健康相談室を利用した地域住人の健康相談ニーズと実証実験の現況を分析し、医療提供施設へのアクセスビリティ及び医療サービス提供の地域格差を減少させるためのシステムの観点から、薬局を拠点とした国民の健康管理への対応が望まれている事が示唆された。